

# 四日市市 高齢者介護に関する調査結果報告書

(介護支援専門員調査)

平成 29 年 3 月

四日市市



## 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は、平成 30 年度から実施する次期「高齢者保健福祉計画」および「介護保険事業計画」を策定するにあたり、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉全般にかかわる各種サービス提供を充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

### 2. 調査の方法

- ① 調査対象地域 四日市市全域
- ② 調査対象者 居宅介護支援事業所に勤務する介護支援専門員
- ③ 調査期間 平成 29 年 1 月
- ④ 調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

### 3. 配布・回収数

配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
302 件	204 件	67.5%	0 件	204 件	67.5%

### 4. 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中の N 数(numberofcase)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。

## 調査結果

### 問1 所属などについて

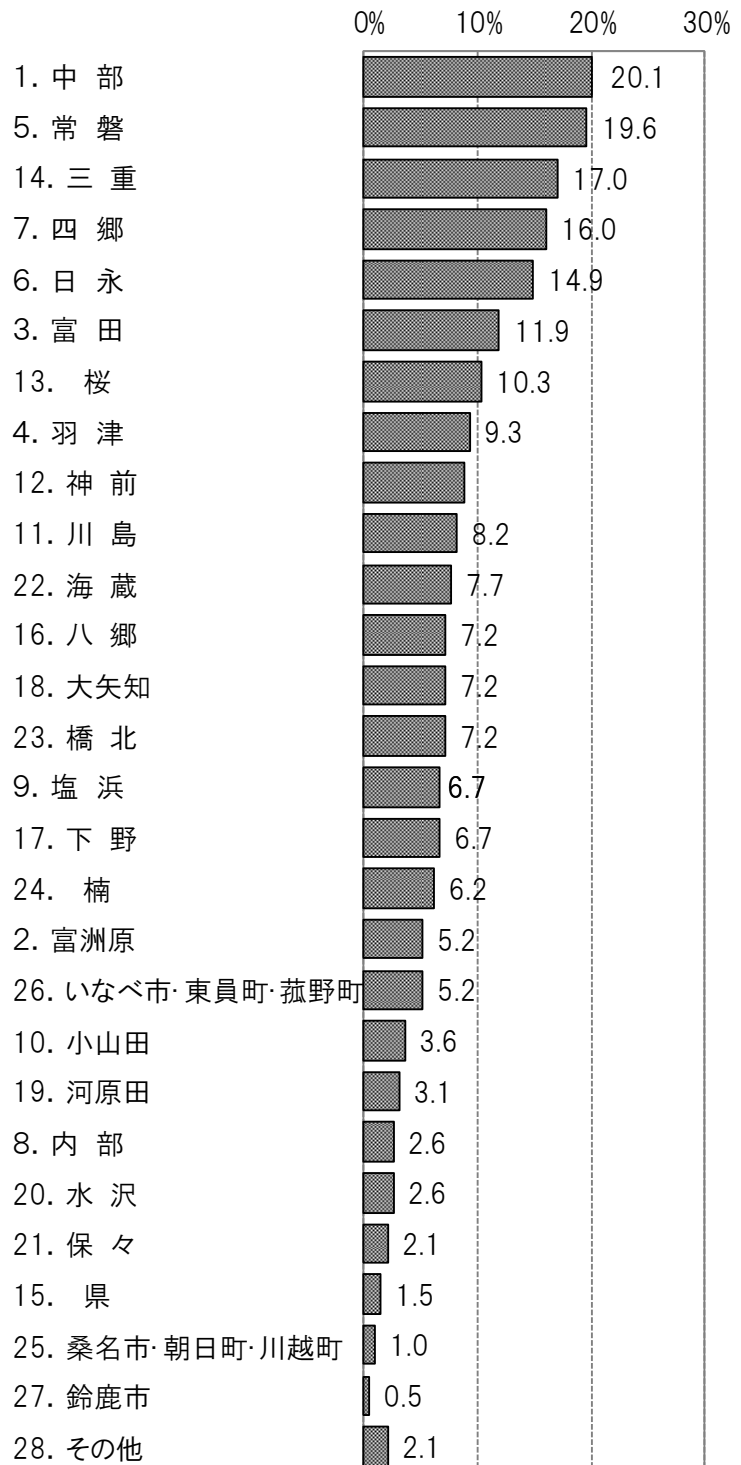
(1) あなたが所属している事業所の所在地はどちらですか。(〇はひとつ)【N=201】

所属事業所の所在地については、「中部」が19.9%(40人)で最も高く、他地区を大きく上回っています。次いで、「三重」(11.4%・23人)、「小山田」と「下野」(7.0%・14人)の順となっています。



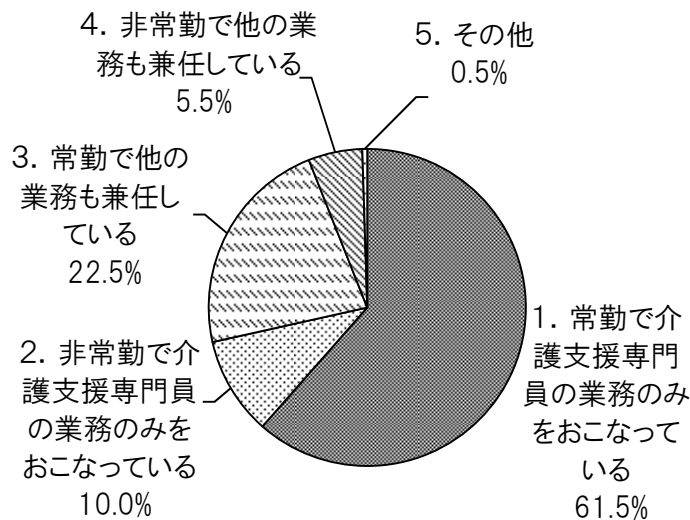
## (2) あなたは、主にどの地区の利用者のケアプランを作成していますか。(〇は上位3地区まで)【N=194】

利用者の地区については、「中部」が20.1%(39人)で最も高く、次いで、「常磐」(19.6%・38人)、「三重」(17.0%・33人)、「四郷」(16.0%・31人)が続いています。



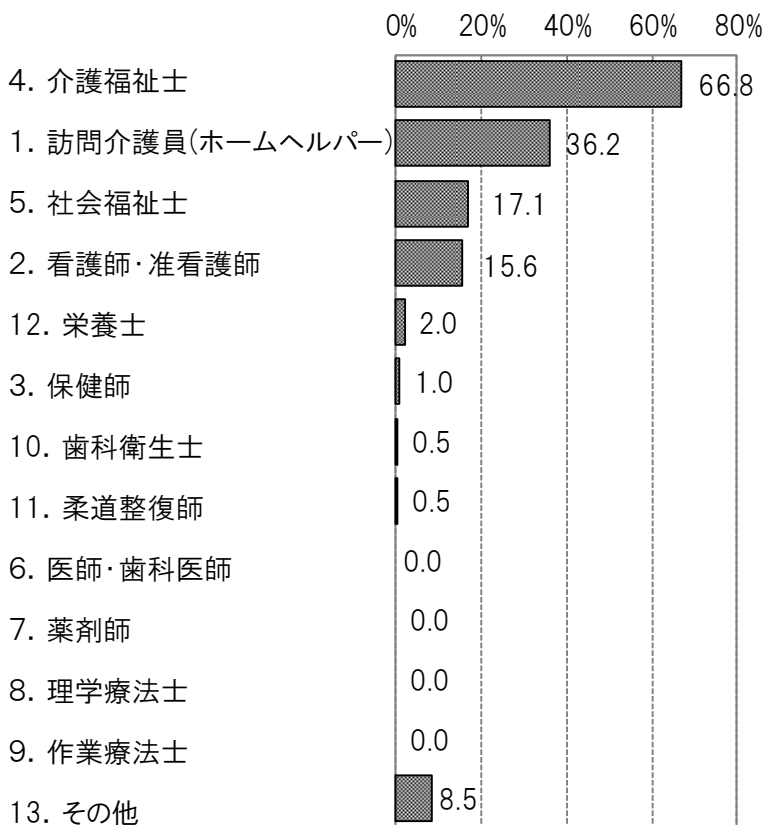
**(3) あなたが介護支援専門員として働く勤務形態は、次のどれですか。(〇はひとつ)【N=200】**

勤務形態については、「常勤で介護支援専門員の業務のみをおこなっている」が61.5%(123人)で最も高く、次いで、「常勤で他の業務も兼任している」が22.5%(45人)となっています。「常勤」は合わせて84.0%(168人)、「非常勤」は合わせて15.5%(31人)となっています。また、「専任」は合わせて71.5%(143人)、「兼任」は合わせて28.0%(56人)となっています。



**(4) あなたは、次の資格の中でどれをお持ちですか。(当てはまるものすべてに〇)【N=199】**

所有資格については、「介護福祉士」が66.8%(133人)で最も高く、次いで、「訪問介護員(ホームヘルパー)」(36.2%・72人)、「社会福祉士」(17.1%・34人)、「看護師・准看護師」(15.6%・31人)が続いています。



(5) あなたが所属している事業所に併設しているサービスは何ですか。(当てはまるものすべてに○)  
【N=200】

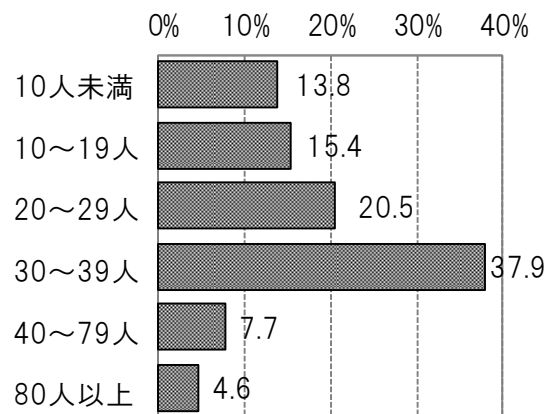
所属事業所の併設サービスについては、「通所介護」が62.5%(125人)で最も高く、次いで、「訪問介護」(45.0%・90人)、「短期入所生活介護」(42.0%・84人)が続きます。  
一方、「居宅介護支援のみ」の事業所も10.5%(21人)ありました。



## 問2 ケアマネジメントについて

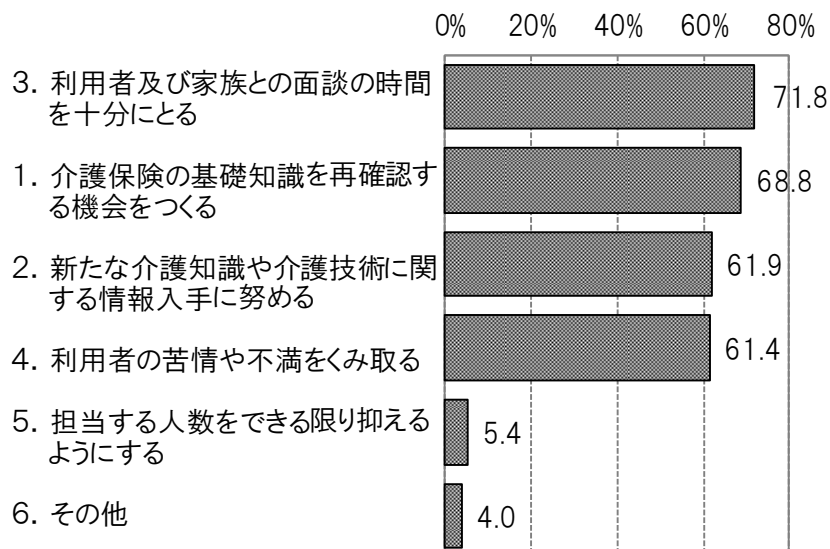
### (1) あなたが、現在担当している利用者は何人ですか。【N=195】

担当利用者数は、「30～39人」が37.9%(74人)に上ります。「80人以上」も4.6%(9人)いる一方、「10人未満」も13.8%(27人)に上るなど、ばらつきが見られます。



### (2) あなたがケアマネジメントの質を高めるためにおこなっていることはどのようなことですか。(当てはまるものすべてに○)【N=202】

ケアマネジメントの質の向上に向けて取り組んでいることについては、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」が71.8%(145人)に上り、多くのケアマネジャーが心がけていることがわかります。また、「介護保険の基礎知識を再確認する機会をつくる」(68.8%・139人)や「新たな介護知識や介護技術に関する情報入手に努める」(61.9%・125人)、「利用者の苦情や不満をくみ取る」(61.4%・124人)にも取り組まれていることがわかります。一方、「担当する人数をできる限り抑えるようにする」は5.4%(11人)にとどまりました。



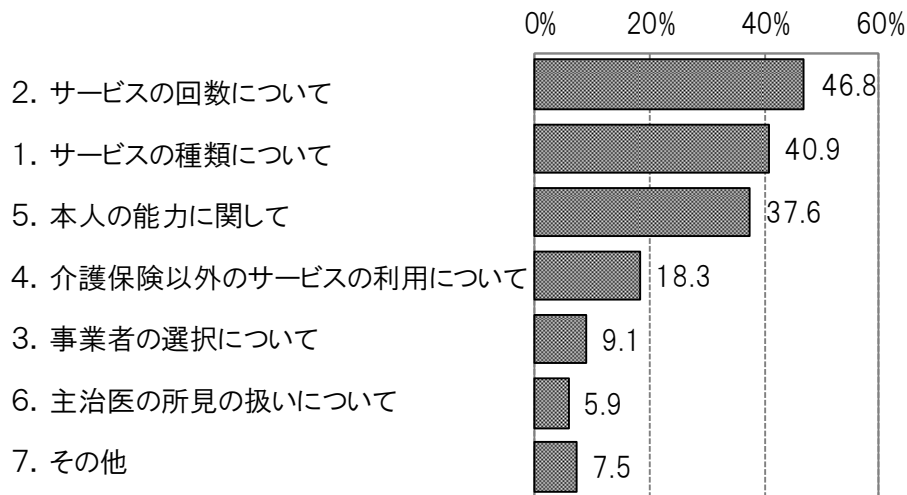
### (3) あなたがケアマネジメントをおこなう上で、困っていることや悩みなどはありますか。

※記述回答につき、本報告書では省略。



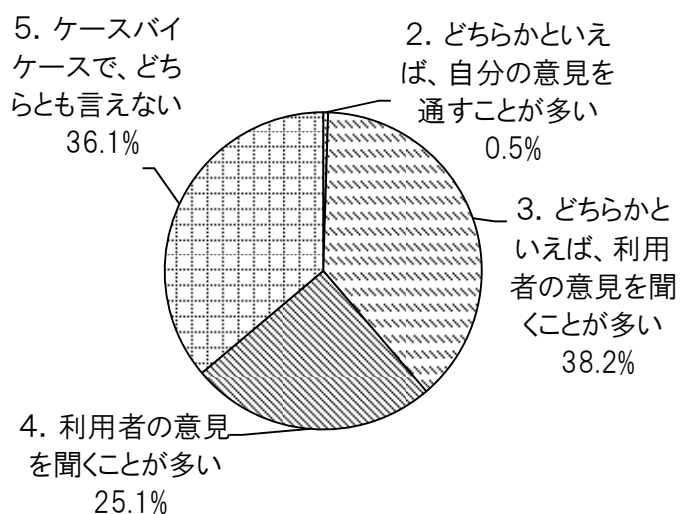
(4) ケアプランを作成する際、介護支援専門員であるあなたの意見と、利用者との意見が食い違うのは、どのような場合ですか。(当てはまるものすべてに○)【N=186】

利用者との意見が食い違う場合としては、「サービスの回数について」が46.8%(87人)で最も高く、次いで、「サービスの種類について」(40.9%・76人)、「本人の能力に関して」(37.6%・70人)が続きます。一方、「事業者の選択について」や「主治医の所見の扱いについて」は少数となっています。



(5) あなたと利用者との意見が食い違う場合、どのように対処していますか。(○はひとつ)【N=191】

意見が食い違う場合の対処法は、「どちらかといえば、利用者の意見を聞くことが多い」が38.2%(73人)に上り、次いで、「ケースバイケースで、どちらとも言えない」(36.1%・69人)、「利用者の意見を聞くことが多い」(25.1%・48人)が続いており、「自分の意見を通すことが多い」はありません。



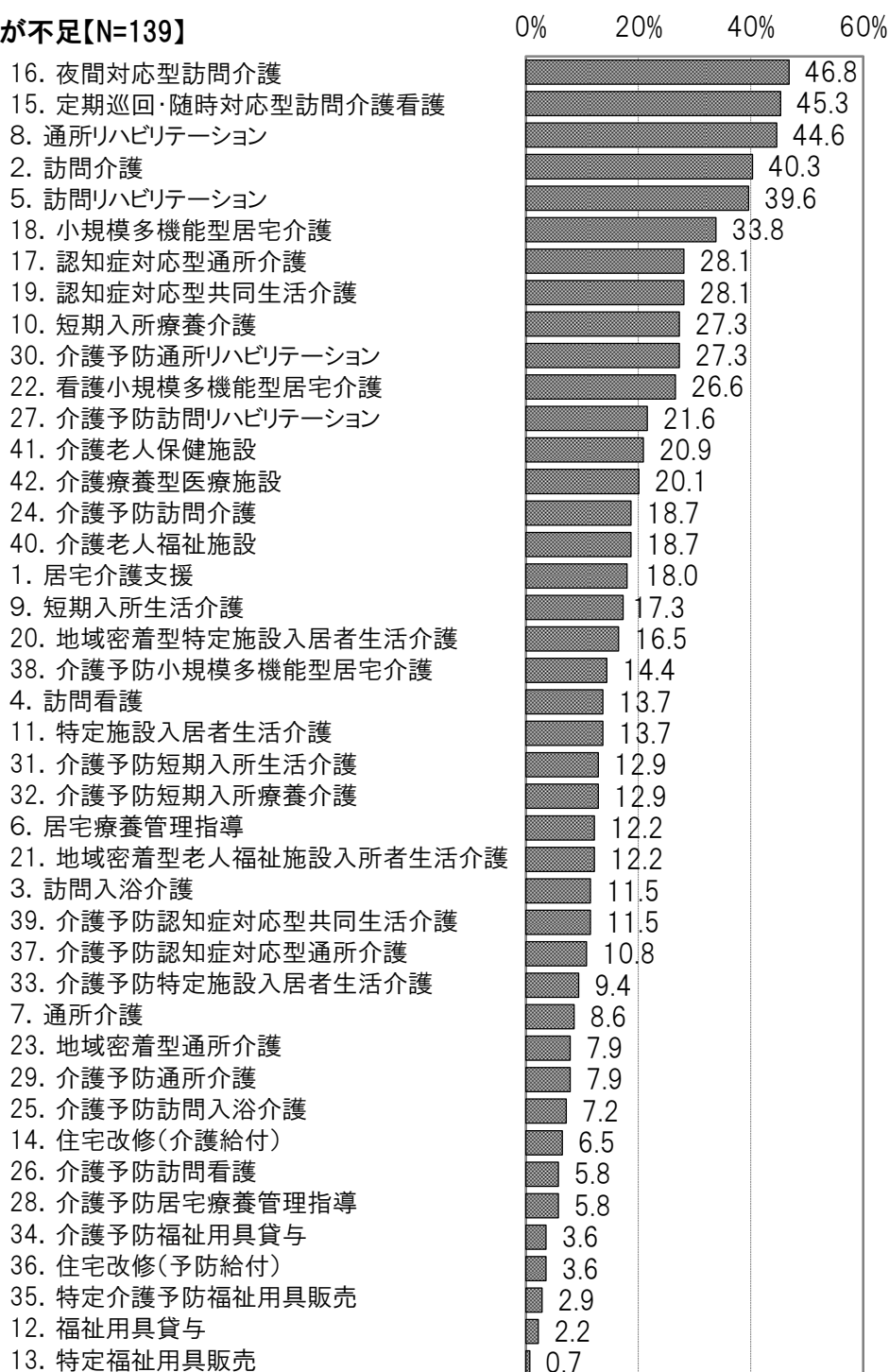
### 問3 介護サービスについて

(1) 現行サービス(1~42)についての評価はいかがですか。ア、イ、ウ、エのそれぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

量が不足していると考えられているサービスは、「夜間対応型訪問介護」(46.8%・65人)を筆頭に、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(45.3%・63人)、「通所リハビリテーション」(44.6%・62人)、「訪問介護」(40.3%・56人)などが上位意見となっています。

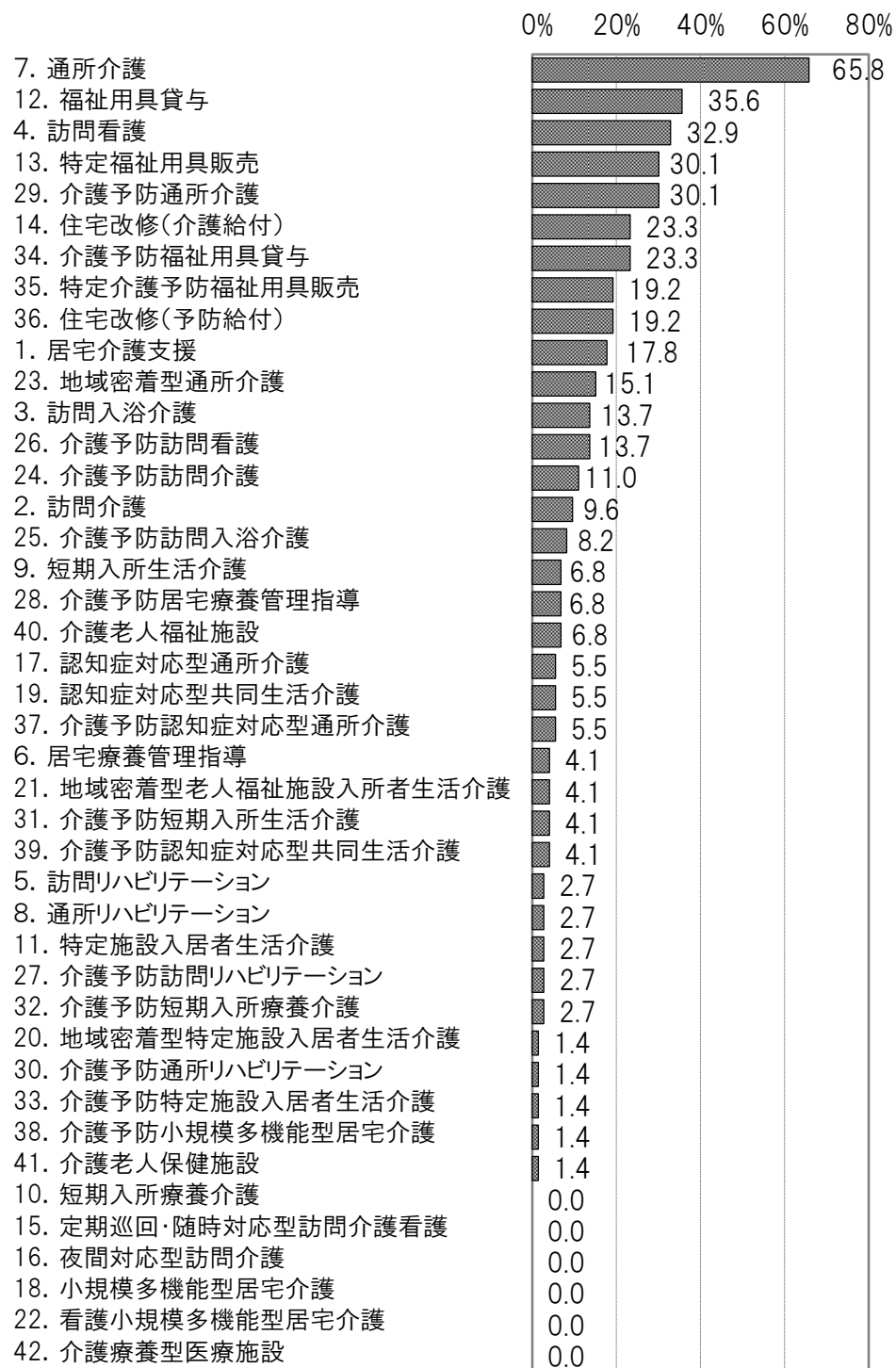
一方、介護予防サービスは、「介護予防通所リハビリテーション」(27.3%・38人)と「介護予防訪問リハビリテーション」(21.6%・30人)は20%を超えていますが、それ以外のサービスはあまり多くはありません。

#### ア. サービスの量が不足【N=139】



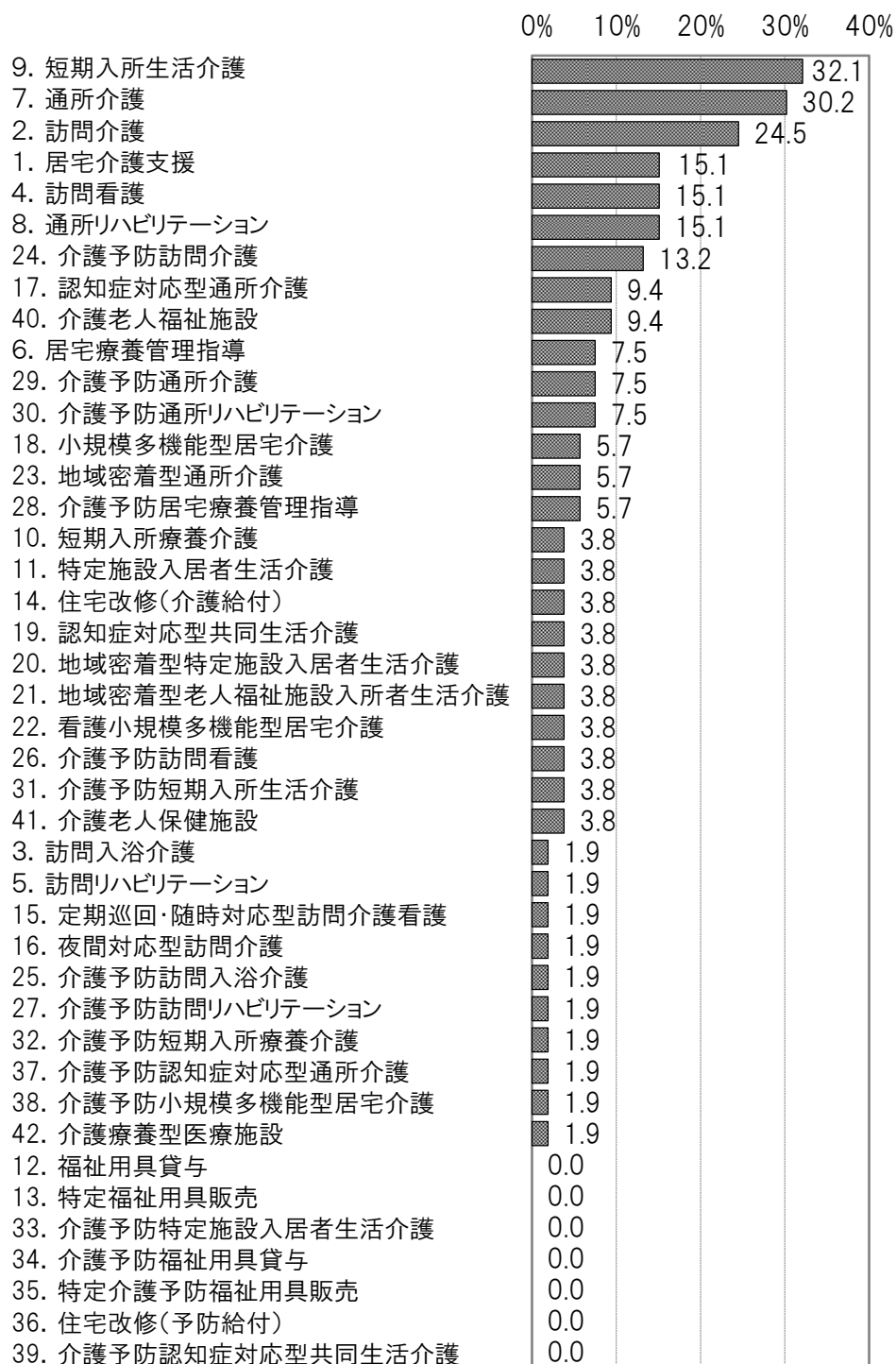
量が過剰と考えられているサービスは、「通所介護」が65.8%(48人)で最も高く、次いで、「福祉用具貸与」(35.6%・26人)、「訪問看護」(32.9%・24人)が続いています。

イ. サービスの量が過剰【N=73】



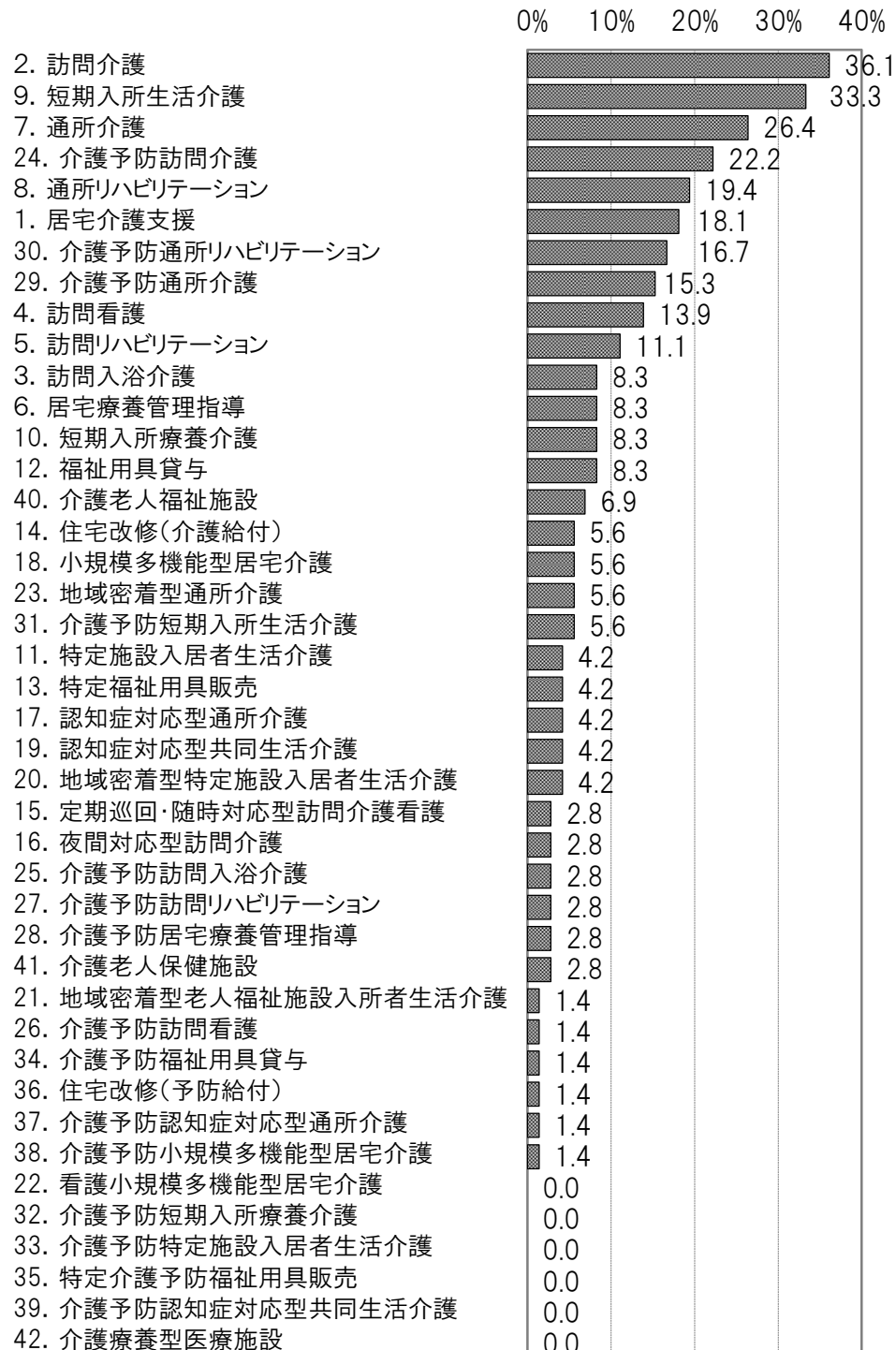
質が悪いと考えられているサービスは、全般に回答が多くない中で、「短期入所生活介護」(32.1%・17人)、「通所介護」(30.2%・16人)、「訪問介護」(24.5%・13人)といった利用の多いサービスで若干多くなっています。

### ウ. サービスの質が悪い【N=53】



利用者の不満が多いサービスは、「訪問介護」が36.1%(26人)で最も高く、次いで、「短期入所生活介護」(33.3%・24人)、「通所介護」(26.4%・19人)、「介護予防訪問介護」(22.2%・16人)が続いていますが、それ以外のサービスは20%未満であり多くなく、不満は少ないと言えます。

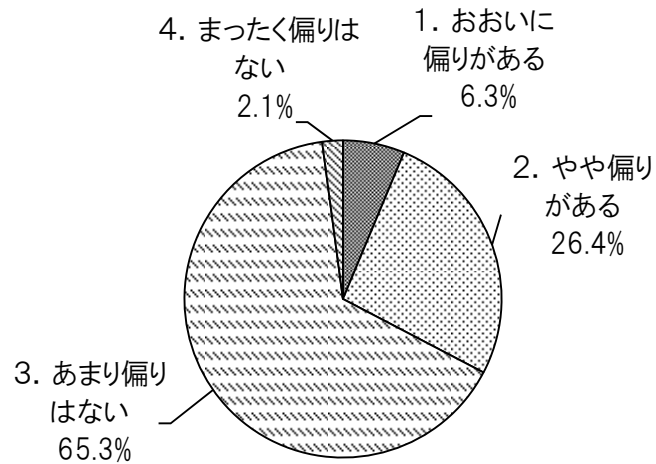
### エ. 利用者の不満が多い【N=72】



(2) 介護保険のサービスについて、四日市市内で、地域による偏りがみられますか。(〇はひとつ)【N=144】

地域による偏りについては、「あまり偏りはない」が65.3%を占め、「まったく偏りはない」(2.1%)を合わせると約7割(67.4%)の人が『偏りはない』と感じています。

一方、「おおいに偏りがある」(6.3%)と「やや偏りがある」(26.4%)を合わせた『偏りがある』と感じている人は約3割(32.7%)となっています。



**【(2)で「1. おおいに偏りがある」「2. やや偏りがある」と回答された方におうかがいします。】**

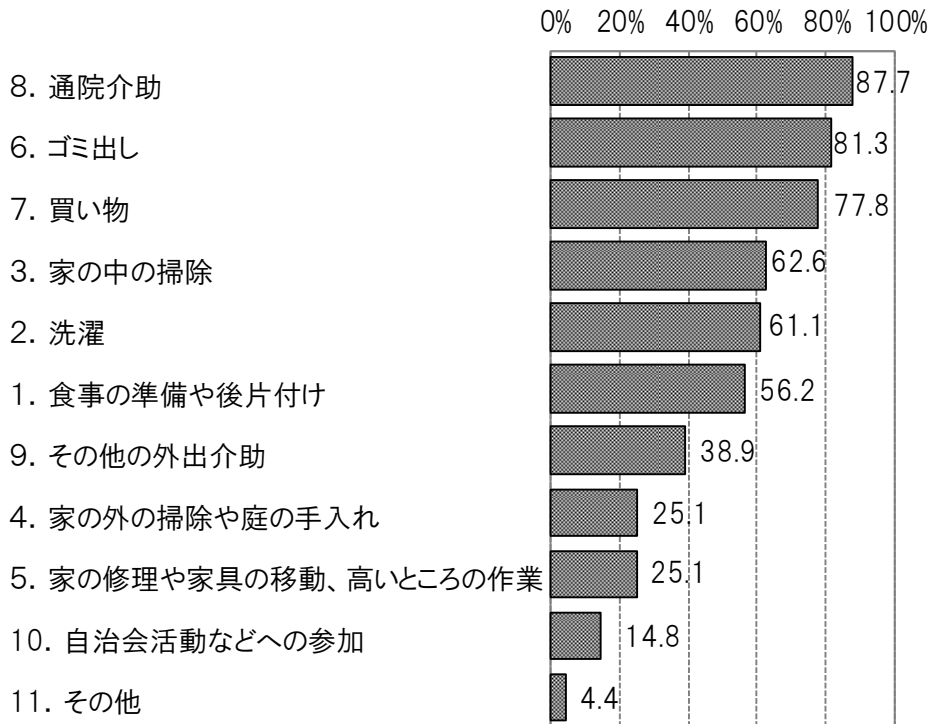
- (2)-① 偏りがみられるサービスはどのサービスで、主にどの地区で不足しているとお感じですか。  
なお、サービス名については問3を、地区名については問1を、それぞれご参照ください。

※記述回答につき、本報告書では省略。

## 問4 日常生活の支援について

(1) 介護や支援が必要な人の日常生活を支援するためのサービスとして、どのようなことが必要だと思いますか。(当てはまるものすべてに○)【N=203】

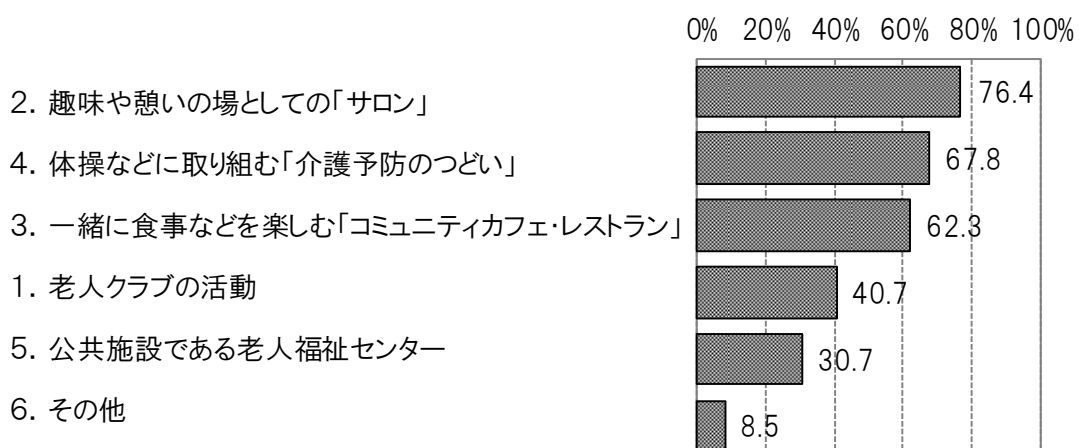
日常生活を支援するためのサービスとして何が必要だと思うかについては、「通院介助」が87.7%(178人)で最も高く、次いで、「ゴミ出し」(81.3%・165人)、「買い物」(77.8%・158人)が続いています。



(2) ふだんの日中、高齢者が集まる場として、どのようなものが必要だと思いますか。(当てはまるものすべてに○)【N=199】

ふだんの日中、高齢者が集まる場としてどのようなものが必要かについては、「趣味や憩いの場としての「サロン」」が76.4%(152人)で最も高く、次いで、「体操などに取り組む「介護予防のつどい」」が67.8%(135人)、「一緒に食事などを楽しむ「コミュニティカフェ・レストラン」」が62.3%(124人)が続いています。

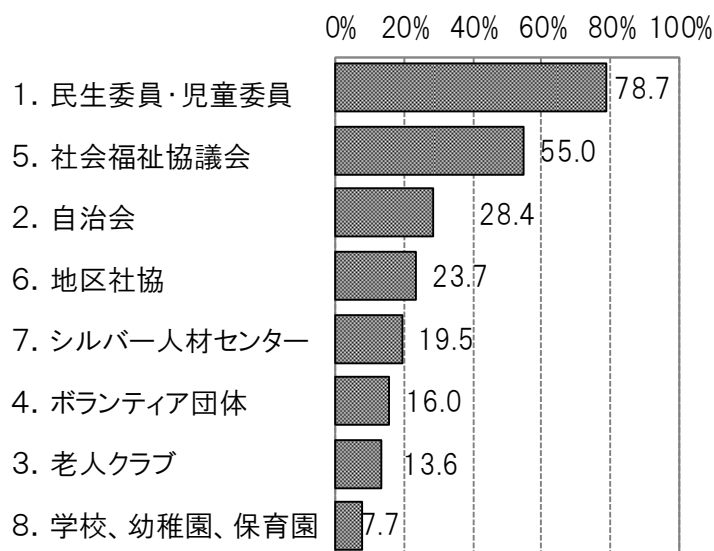
一方、「老人クラブの活動」は40.7%(81人)、「公共施設である老人福祉センター」は30.7%(61人)となっています。



## 問5 地域や多職種間での連携について

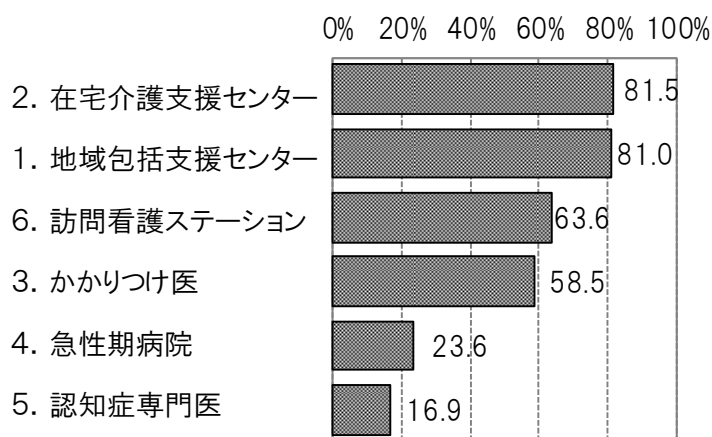
- (1) 四日市市内の各種団体とは連携を図ることができますか。連携できている団体を選んでください。  
(当てはまるものすべてに○)【N=169】

連携できている団体については、「民生委員・児童委員」が78.7%(133人)で最も高く、次いで、「社会福祉協議会」(55.0%・93人)、「自治会」(28.4%・48人)が続いています。



- (2) 次のような機関と連携を図ることができますか。連携できている機関を選んでください。(当てはまるものすべてに○)【N=195】

連携できている機関については、「在宅介護支援センター」(81.5%・159人)と「地域包括支援センター」(81.0%・158人)が突出して高く、次いで、「訪問看護ステーション」(63.6%・124人)、「かかりつけ医」(58.5%・114人)が続いています。

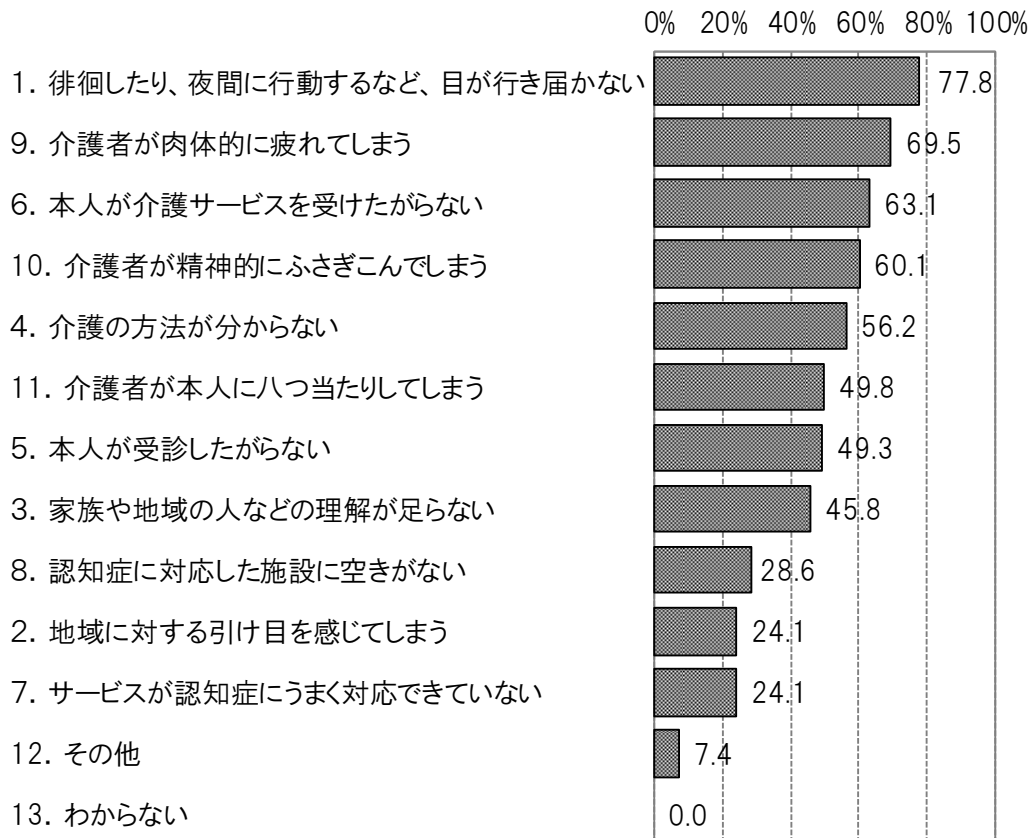




## 問6 認知症対策について

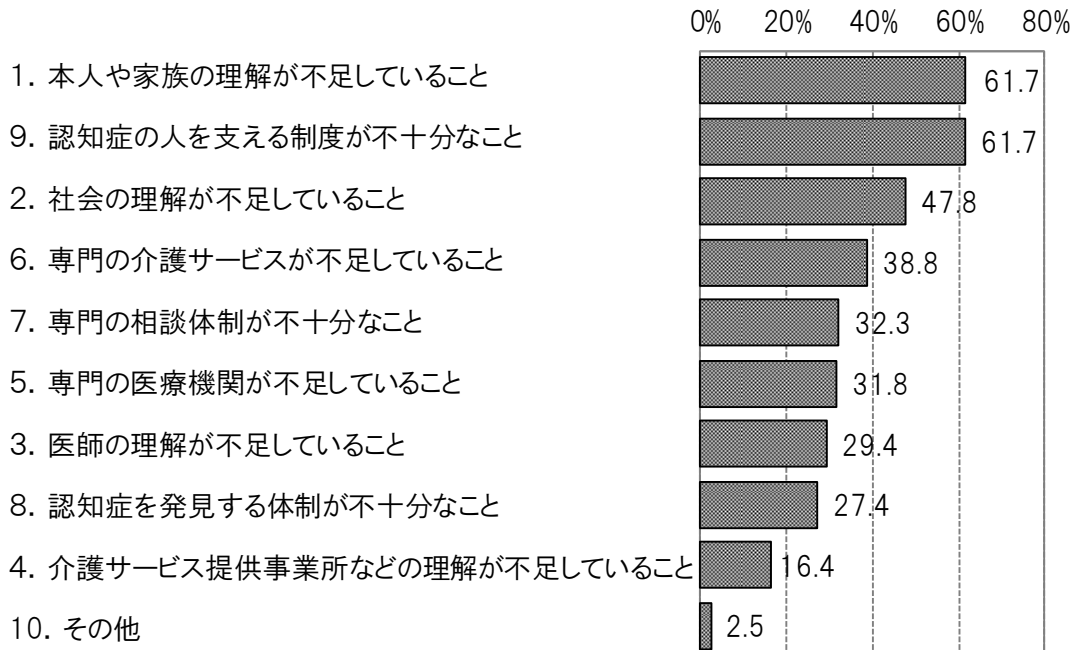
(1) 認知症に対して、介護者はどのようなことに困っていると思いますか。(当てはまるものすべてに○)  
【N=203】

認知症に対して介護者が困っていることについては、「徘徊したり、夜間に行動するなど、目が行き届かない」が77.8%(158人)で最も高く、次いで、「介護者が肉体的に疲れてしまう」(69.5%・141人)、「本人が介護サービスを受けたがらない」(63.1%・128人)などが続いています。



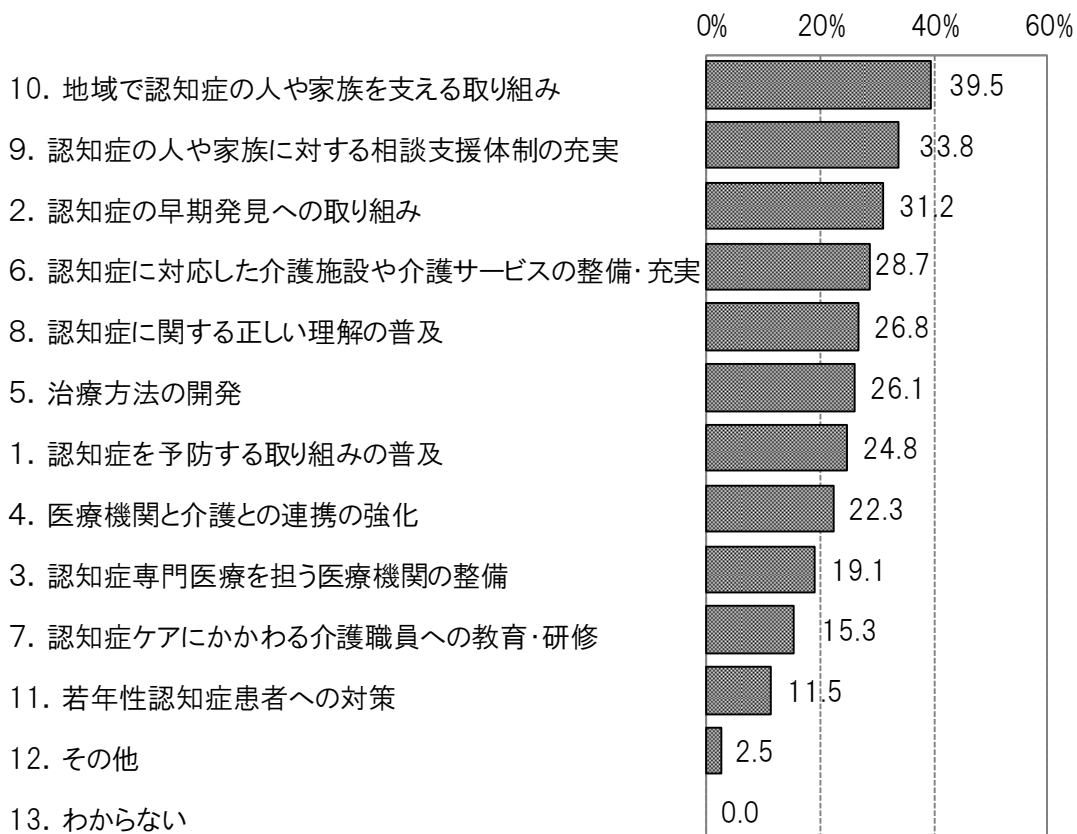
**(2) 認知症対策を充実させていく上での課題は何だと思えますか。(当てはまるものすべてに○)【N=201】**

認知症対策を充実させていく上での課題については、「本人や家族の理解が不足していること」と「認知症の人を支える制度が不十分なこと」が同率(61.7%・124人)で最も高く、次いで、「社会の理解が不足していること」が47.8%(96人)で続いています。



**(3) 社会において、特に重点を置くべき認知症対策は何だと思えますか。(○は3つまで)【N=157】**

特に重点を置くべき認知症対策については、「地域で認知症の人や家族を支える取り組み」が39.5%(62人)で最も高く、次いで、「認知症の人や家族に対する相談支援体制の充実」(33.8%・53人)、「認知症の早期発見への取り組み」(31.2%・49人)が続いています。

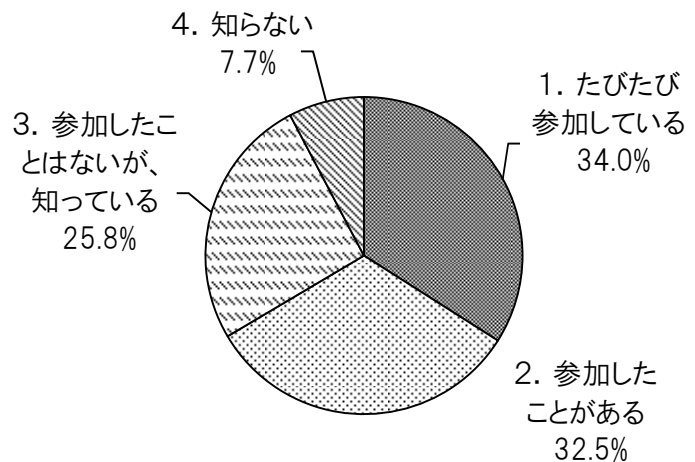


## 問7 医療との連携、在宅での療養・介護について

(1) 四日市市では、地域包括支援センターを核に医療と介護関係者が話し合う場である「医療・介護ネットワーク会議」が「きた」「なか」「みなみ」のブロックごとに組織されています。あなたは、「医療・介護ネットワーク会議」の活動をご存じですか。(〇はひとつ)【N=194】

「医療・介護ネットワーク会議」の活動に「たびたび参加している」が34.0%(66人)で最も高く、次いで、「参加したことがある」が32.5%(63人)で続いており、参加経験のある人が過半数を占めています。また、「参加したことはないが、知っている」は25.8%(50人)となっています。

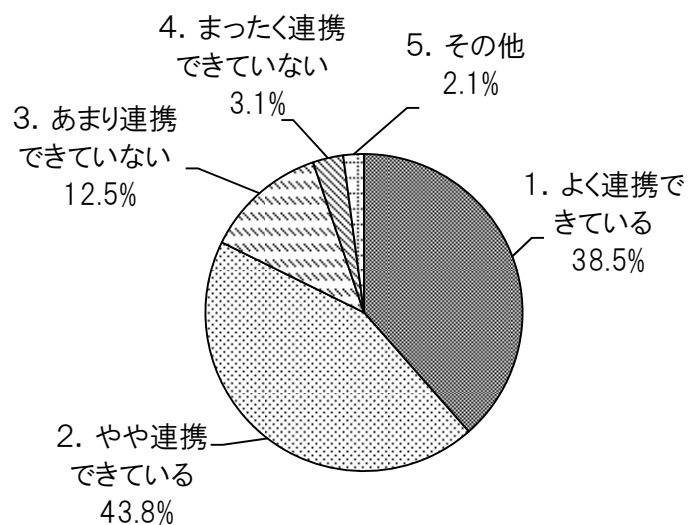
一方、「知らない」は7.7%(15人)で少なくなっています。



(2) 訪問看護ステーションとの連携はできていると思いますか。(〇はひとつ)【N=192】

訪問看護ステーションとの連携については、「よく連携できている」(38.5%・74人)と「やや連携できている」(43.8%・84人)を合わせると80%以上の方が連携できていると感じています。

一方、「まったく連携できていない」はわずか3.1%(6人)にとどまっています。

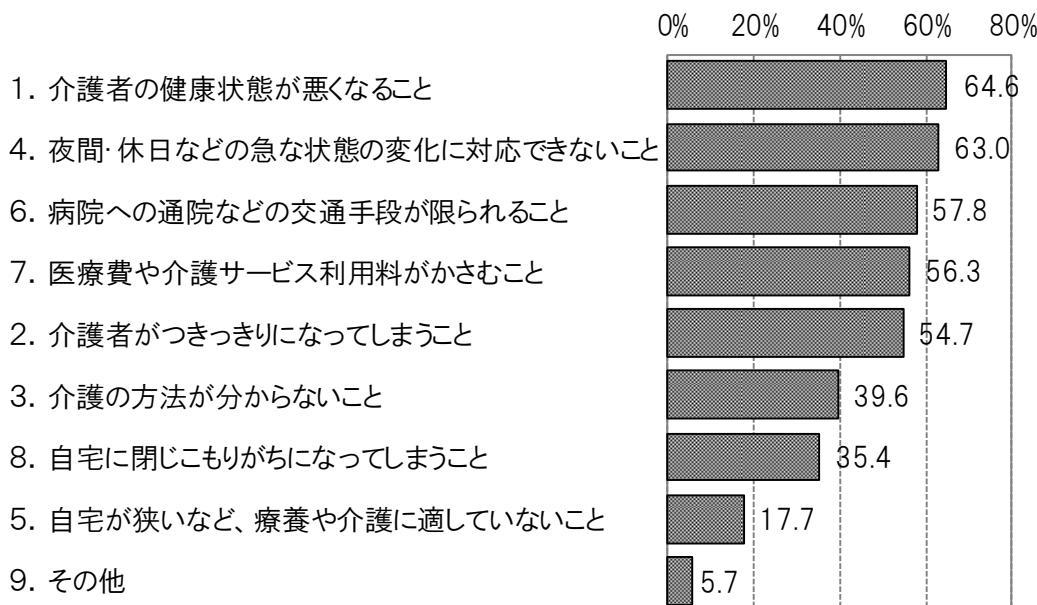


(3) ケアマネジャーとして、医療職(主治医、病院の地域連携室、訪問看護ステーションなど)との連携を図っていく上で、良くなったと感じることはありますか。また、困っていること、改善が必要と感じていることはありますか。

※記述回答につき、本報告書では省略

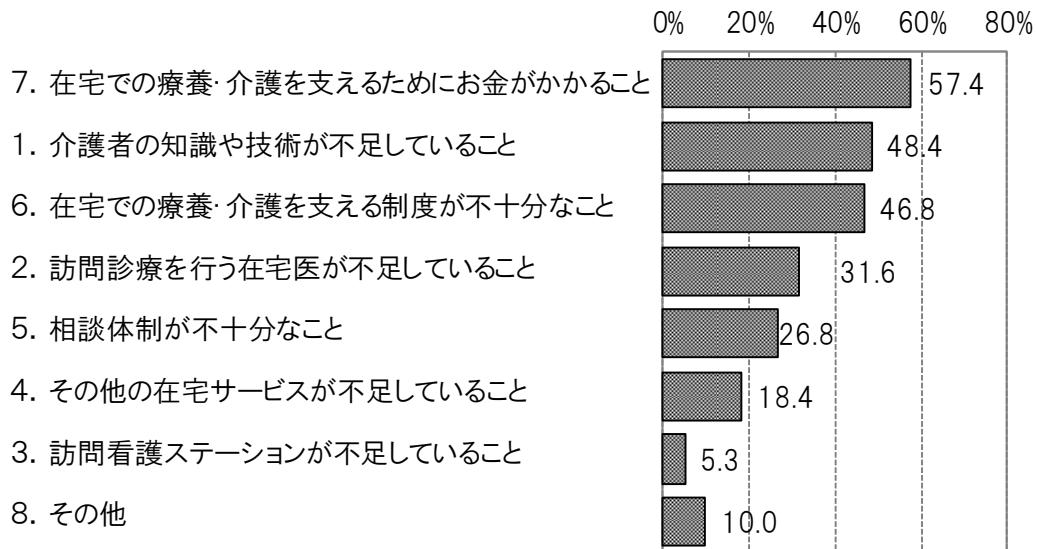
(4) 在宅での療養・介護を希望される方は、どのようなことに困っていると思いますか。(当てはまるものすべてに○)(N=192)

在宅での療養・介護を希望される方が困っていることについては、「介護者の健康状態が悪くなること」(64.6%・124人)と「夜間・休日などの急な状態の変化に対応できないこと」(63.0%・121人)が60%を超えています。次いで、「病院への通院などの交通手段が限られること」(57.8%・111人)、「医療費や介護サービス利用料がかさむこと」(56.3%・108人)、「介護者がつきっきりになってしまうこと」(54.7%・105人)などが続いています。



(5) 在宅での療養・介護を支援していく上での課題は何だと思いますか。(当てはまるものすべてに○)  
【N=190】

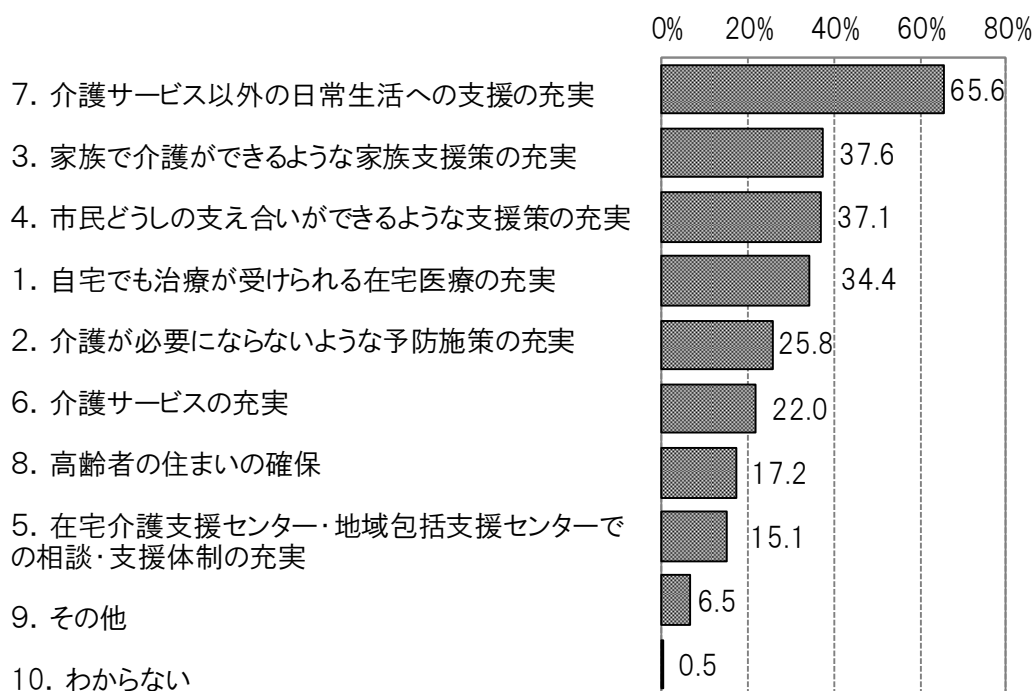
在宅での療養・介護を支援していく上での課題については、「在宅での療養・介護を支えるためにお金がかかること」が57.4%(109人)で最も高く、次いで、「介護者の知識や技術が不足していること」(48.4%・92人)、「在宅での療養・介護を支える制度が不十分なこと」(46.8%・89人)が続いています。



## 問8 今後の介護について

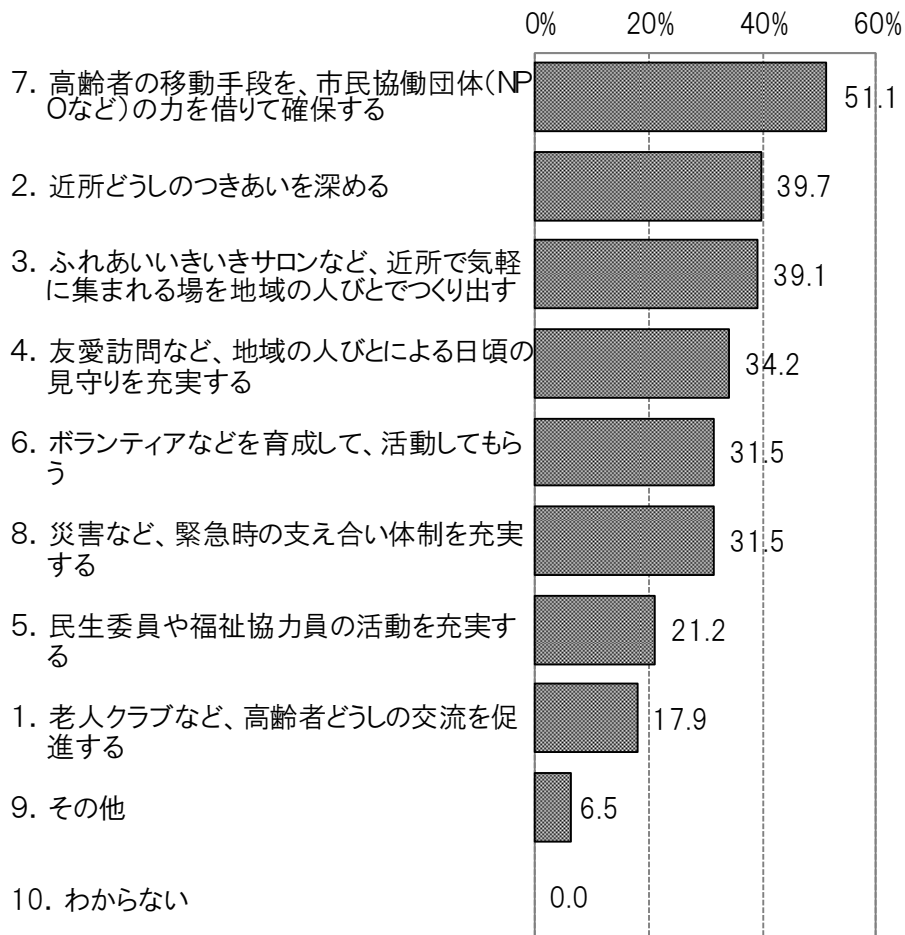
### (1) 高齢者への介護体制の充実のため、行政は何をすべきだと思いますか。(〇は3つまで)【N=186】

高齢者への介護体制の充実のため、行政がすべきこととしては、「介護サービス以外の日常生活への支援の充実」が65.6%(122人)で最も高く、次いで、「家族で介護ができるような家族支援策の充実」(37.6%・70人)、「市民どうしの支え合いができるような支援策の充実」(37.1%・69人)が続いています。



(2) 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするため、どのようなことが重要だと思いますか。  
(〇は3つまで)【N=184】

高齢者が地域で暮らし続けるために重要なこととしては、「高齢者の移動手段を、市民協働団体(NPO などの力を借りて確保する」が 51.1%(94 人)で最も多く、「近所どうしのつきあいを深める」(39.7%・73 人)、「ふれあいいいききサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」(39.1%・72 人)が続き、移動支援やコミュニティ組織、交流機会が重視されています。



(3) その他、介護・高齢者福祉に対するご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

※記述回答につき、本報告書では省略